



くらもと たかふみ  
蔵本隆文議員



ももたろうの  
防災ガイドブック



おくの やすひさ  
奥野泰久議員



被災現場

# 災害対応策を 早期に準備すべき！

**議員** 昨年7月の豪雨で、笠岡市、特に北川地区では今まで経験したことがないほど広範囲に及ぶ災害が発生した。その対応においては、多くの場面において組織が十分に機能できなかった。今回の災害を教訓に色々な場面での対策を立てなければならないが、そのために必要なのが検証作業である。9月議会、議会として提出要請したがいまだに出ないのはなぜか。

**市長** まだ復旧復興途中のため、検証する段階にない。

**議員** 避難所においては不具合が多く起きた。発災から1カ月までの検証を早く出し、今後に向けて話し合うべきではないのか。  
また、検証は何を基準に行っているのか。

**危機管理部長** 被害ゼロを基準と考えている。

**議員** 基準は内閣府が綿密に出している。基準どおりできなかったことで何の支障が起きたのか。それを今後個別にどういう対応をして行く、というのを出すべきでは。

**危機管理部長** 防災計画に書いてあるとおりのことができなかった。

**議員** イタリアのように、キッチンカーを県下5箇所程置くよう市長会で提案すればどうか。

**市長** 議論していきたい。

私の地区の避難訓練において災害時に機能できなかったことを改良した災害時連絡網、避難所受付票、集計表等のシステムを提言した。

# 笠岡市空き家等の適正管理に 関する条例について

**議員** 離島の場合、撤去費用が割高であることから、その費用に応じた支援ができないか。

**市長** 危険空き家等の除去の推進の補助金要綱を平成29年10月1日施行、現在まで6件の利用がある。補助対象経費の100分の50に相当する額で、かつ上限が50万円、内訳は県補助が市支出分の2分の1、上限25万円が充当される仕組みである。指摘のとおり、島しょ部では狭隘な道路が多く、船舶で島外へ搬出することから、経費が割高となることから、県とも協議し、実情にあった検討をしたい。

**議員** 業務量も増加しており、専門部門の設置はできないか。

**市長** 増加する危険空き家の対応に相当の配置を検討したい。

# 市道馬飼26号込山線の 復旧について

**議員** 県立笠岡商業高校野球グラウンド横の市道が2018年10月1日の台風24号で被災したもので、いまだ復旧のめどがつかっていない。底地は県有地であり、県との協議はなされているのか。

**市長** 同グラウンド造成に伴い、河川横断部に造成されたもので、開渠であった河川を暗渠化したため、流下能力が不足し、水が越水したことが原因と思われる。県と現地確認し協議を行ってきた。詳細が決まり次第、県において工事に着手する予定と聞いている。

**議員** 管理者の責任として市はもう少し踏み込み、地域の方々に迷惑がかからない対応ができないか。

**建設部長** 認定道路で市の責任もあり、県と協議して取り組みたい。